

## はじめに

平成 23 年度は、地域医療支援病院の承認から 1 年が経過し、地域の医療機関との連携の充実が図られた年となりました。地域医療支援病院には、紹介患者中心の医療の提供、建物・設備・機器等の地域の医師等との共同利用、地域の医療従事者に対する研修の実施などの役割があります。

まず紹介患者中心の医療の提供につきましては、がんや糖尿病などの地域連携クリティカルパスによるかかりつけ医との共同診療の取り組みを進めるとともに、E R（救急総合診療部）を軸とした逆紹介の推進を図った結果、紹介率は 52.8%（前年度 48.3%）、逆紹介率は 72.4%（前年度 69.9%）と向上することができました。また、地域の医師等との共同利用の面では、かかりつけ医と市立病院の医師が共同して入院患者の診療にあたる開放病床の稼働率が 99.1%（前年度 93.6%）と向上するなど、共同利用の促進が図られました。さらに、地域の医療従事者に対する研修の実施にあたっては、従来から開催しております N S T 大会、看護師スキルアップ研修などに加え、北摂感染制御研究会や北摂緩和ケア研究会などのチーム医療に関する研修を新たに開催し、地域の医療従事者のスキルアップに貢献することができたと考えています。

医療体制の面では、鏡視下（内視鏡）手術専用室を 1 室整備して 2 室体制にするとともに、手術装置や器材を充実させ、より効率的に手術が行える環境を整備しました。また、内視鏡関連の設備機器も充実させ、検査件数の増に対応できる環境を整備しました。これらにより、患者さまにとって身体的な負担の少ない医療をさらに推進させていきます。

昨年 7 月から 9 月にかけて、多剤耐性緑膿菌（MDR P）の感染者が 1 名発生し、I C U 病棟の入院を制限する措置を行うとともに、職員に対して標準予防策の徹底を図るなど、院内感染の防止策を講じてきました。結果として、院内感染には至らず、患者さまの安全を確保することができました。しかし、その間、他の重症患者の受け入れができなかった反省を踏まえ、入室制限を最小限にするために I C U をセパレートできる環境を整備することにいたしました。

経営面では、平成 23 年度の収支は 3 億 7 千 8 百万円の赤字となりました。平成 22 年度と比較すると、1 億 5 千 4 百万円悪化しておりますが、市立病院改革プランで設定した平成 23 年度の収支目標（5 億 4 千万円の赤字）の範囲内には赤字額が収まることができました。これで改革プランがスタートした平成 21 年度から 3 年連続して目標を達成することができています。また、一般会計からの繰入金を除いた実質的な赤字額は 6 億 3 千 8 百万円となっており、改革プラン策定時と比較し、約 6 億円を収支改善することができました。

医療を取り巻く環境は依然として厳しい状況となっておりますが、今後も引き続き、経営の健全化により、質の高い医療サービスを提供し、「地域の皆様に信頼され、愛される病院」として地域医療に貢献してまいります。

平成 24 年 9 月

箕面市病院事業管理者 重松 剛

箕面市立病院総長 田村 信司

箕面市立病院病院長 黒川 英司